

東葛支部会報

第27号

千葉工業同窓会東葛支部

2015年4月1日



日本の名城シリーズ その4

盛岡城 (岩手県盛岡市)

国の史跡に指定されている。「盛岡城」は盛岡藩南部氏の居城であり、西部を流れる北上川と南東部を流れる中津川の合流地、現在の盛岡市中心部にあった花崗岩丘陵に築城された連郭式平山城である。本丸の北側に二の丸が配され、本丸と二の丸の間は空堀で仕切られ、現在は朱塗りの橋が架かっている。存城当時は廊下橋（屋根の架かった橋）が架けられていた。さらにその北側に三の丸が配され、本丸を囲むように腰曲輪、淡路丸、榊山曲輪が配された。幕府への遠慮から天守は築かれず、天守台に御三階櫓が建造され代用とされた。建造物は明治初頭に解体され、現存するものは少ない。

築城 1598年 廃城 1871年

(ウィキペディアより引用)

新年会兼定例会議

平成27年東葛支部の活動は新年会で始まった。会場は昨年と同じ上野広小路の「鍛冶屋文蔵湯島店」、参加者は11名と少なかった。



冒頭、吉田支部長から連絡事項と今後の予定についての話があり、特に昨年は支部創立15周年に当たり、記念の定期総会及びその後開催の懇親会アトラクションは本部・各支部から来られた来賓の皆様方からご好評を賜り、当支部総会に出席したいとの希望者が多いとのこと。今年も団結して楽しい支部の運営をしようとの挨拶があった。

連絡事項の一つ、同窓祭は例年母校の食堂で開催されていたが、今年は蘇我駅から徒歩15分くらいの所にあるJFE「みやざきクラブ」で6月28日(日)に開催することが、実行委員会で決定された。費用等の詳細は今後実行委員会で詰める事とのことであるが、当日の総合司会進行は当東葛支部が担当となり、吉田支部長を中心に行うことが決定された。

昨年開催定期総会後の懇親会アトラクション その1 平賀お囃子保存会による獅子舞



その2 翔の会による銭太鼓

銭太鼓とは、島根県東部に古くから伝わる民俗的なリズム楽器で「銭の鳴る音」を利用して踊りの伴奏に使用するもの。

特に島根県の伝統民謡である「安来節」の際に良く演じられる。

1本の竹の中には、両端合わせて五円玉が6枚、竹筒2本合わせると五円玉が12枚入っている。この12という数は12ヶ月つまり1年を意味しており、「1年間の幸せをもたらす」という言い伝えがある。



(記 編集委員)

第62回 千工祭

母校千工祭が生実の学校内で10月31日(金)～11月1日(土)の二日間9時半～14時まで開催された。31日は内部の人たちの見学、1日は一般の人たちの見学日となっていた。

今回初めて会場内の一室に同窓会としての活動PRを行うとのことで、千工会、同窓会本部、南総支部、北総支部、千葉市支部、市原市支部、外房支部、京葉支部、東葛支部、10月に発足した女子会(レディス・ビオラ)の各セクションからの活動状況が展示され、同窓会会員の増強を目指すための施策展示がおこなわれた。



▲ 同窓会関係の展示室

当日は9時半から14時までオープンで、編集委員が訪れたのは昼過ぎだったことや、またあいにくの雨の日となった影響もあったようで、各展示会場内は人出が少なかったように感じた。

この千工祭に初めて訪れた最大の思わくは、各支部の活動情報がどんな内容で紹介されているか、気になったことが最大の要因である。



▲ 展示会場への入り口

今回が62回とのことであったが、自分が学んだ津田沼校舎時代にこのような千工祭を行ったと言う記録も記憶もなく、半世紀以上時の過ぎ去ったことをしみじみと感ずることとなった。

各ルームの展示室、さすが工業高校だと思える内容で、パソコンを使ってのゲーム体験やプリント基板を使用して各種装置を起動させる部品の開発展示等が行われていたが、どのような器具にどの様に加工して使用することが出来るか、説明の方法並びに展示の仕方にもう一工夫あれば良かったと思われた。



▲ パソコン使用のゲーム体験室

雨のため外で予定されていた各イベントは中止せざるを得ず、担当した学生たちはさぞ失望したことであろう。

作業実習の工場にもいろいろな展示があるとのことで、現在の電子機械科の工場が我々の学んだ工場と当然の事ながら大きく変わったのも見たかったが、別棟になっていたことと見学時間のこともあり、残念ながら訪るチャンスを逃がしてしまった。

同窓会の一室は初めて展示したことであり、その上雨の日であったことも影響して卒業生がどれだけ見学に来たものか、そしてどのように感じ思ったか、来年に向け卒業生たちにどの様なアピールをしていくか、気になる面を残しながら会場を後にした。

(記 編集委員)

ハイキング同好会に参加

同窓会ハイキングは年2回実施され、4月上旬のハイキングは都市部の名所を訪ね、桜の花見をしながら休憩と昼食をとり比較的起伏の少ないウォーキング。もう一方11月下旬のハイキングは、郊外で少し起伏があり紅葉を楽しみながらのハイキングであった。

◆ 春のハイキング ◆

第25回を迎えた平成26年春のハイキングは、東京都文京区 湯島・本郷地区・上野恩賜公園等を見て歩いた。ハイキングと言うより学問の街をウォーキングすると言った方が良いでしょう。

4月5日(土)JR御茶ノ水駅聖橋口に10時集合、参加者は38名(内東葛支部6名)で風もなく暖かな日であった。

最初に駅のそばにある「湯島聖堂」～神田神社～妻恋神社～湯島神社～麟祥院～赤門～上野不忍池(昼食)～旧岩崎邸庭園～上野公園(解散)を巡り歩いた。

湯島聖堂…1690年儒学に熱心だった徳川5代将軍綱吉が上野の孔子廟を湯島に移し、林

羅山の孫林鳳岡を大学の頭に任じ、官学の府とした。のち聖堂の西隣に昌平坂学問所が設けられ、主に旗本の子弟を教育した。これが東京大学の前身である。



▲ 湯島聖堂

神田神社(神田明神)…江戸に鎮座して1300年近くの歴史を持つ、江戸時代には神田明神と呼ばれた。現在の社殿は昭和の再建で、商売繁盛の神様でもあり、新年を迎えると各企業の人たちの参拝も多い。天慶の乱で有名な平将門を合祀している。社殿の裏手には、野村

胡堂の「銭形平次捕り物控」の主人公、平次親分と子分八五郎の碑がある。



▲ 神田神社境内で集合写真

妻恋神社…天皇の命を受けた日本武尊が、東国征伐のため上総(千葉県)へ向けて船出したが、海が荒れ狂って船が進まなくなった。この時、夫人の弟橘媛命が海に身を投じると、海神の怒りがしずまり、一行は無事に渡ることが出来た。しかし尊は深く悲しみ、折々に「あずまはや(ああ吾が妻よ)」と嘆息されたと言う。

湯島神社…社伝によると1355年、湯島の郷民が霊夢によって菅原道真を祀り、のち1478年太田道灌が再興したと言う。古くから梅の名所で、開花期には梅まつりが催されて大変賑わう。

麟祥院…1624年、徳川3代将軍家光の乳母であった春日局が創建し、1643年65歳で没するまで余生を送った寺。



赤門…旧加賀藩前田家上屋敷の表門で、現在は東大の通用門になっている。



▲ 赤門 旧加賀藩前田家上屋敷表門

1827年、徳川11代将軍家斉の娘溶姫が、前田斉泰に嫁ぐ際に造営された御守殿門として名高い。この門は一度焼失すると再建が許されなかったため、前田家は消防隊の「加賀鳶」を置いて守った。将軍家の権勢を象徴する朱塗りの門で、国の重要文化財である。

御茶ノ水駅をスタートして、各史跡を見学して赤門から東大構内を散策、安田講堂等を見て弥生門から外部へ出た。道の途中にある竹久夢二美術館や横山大観記念館の側を通り上野不忍池へと到着した。ここで昼食となり、各自持参の弁当あるいは近くのコンビニで買い求め、桜の花見を兼ねて一休み。



土曜日で休日のためか、家族連れや若者たちが大勢出ていた。

旧岩崎邸庭園…江戸時代は越後高田藩榊原氏、及び明治初期は舞鶴藩牧野氏の屋敷であった。1896年に岩崎彌太郎の長男で三菱第3代社長の久彌の本邸として造られた。



見学後、上野公園へ行き解散した。

◆ 秋のハイキング ◆

第26回秋のハイキングは、群馬県藤岡市にある国指定及び天然記念物である冬桜の咲く桜山公園を訪れた。

参加者は20名、千葉駅前を出発し南流山を經由(東葛支部の参加者3名はここで乗車)して東京外環自動車道から関越自動車道に入り、三芳PAで休憩をとり、一路関越自動車道を走る。藤岡ICで高速を下りる頃に、心配していた雨がぼつりぼつり降りだした。天気予報では午後からは止むとのことであったが、公園に近づくとつれ雨脚は強くなってきた。当初予定していた軽登山は参加者全員の意見で中止とし、バスは公園の駐車場へと向かった。この公園の広さは32ヘク

タールで一番高い所が標高591m、冬桜が約7000本植栽され、この時期には紅葉と冬桜が一緒に楽しみ、そのコラボレーションは言葉では表せられない。到着時雨はまだ降っており11時半頃であったので、無料休憩所で各自持参の昼食を取りながら様子を見た。暫くするうちに雨は止み、遠くの山並みの上が明るくなり、その内に青空も見られるように変化してきた。これもまた参加者の皆様普段の行いが良いことが反映されたことと思える。公園内を自由散策として14時に駐車場のバスに集合となった。冬桜が並ぶ道を歩き急な階段を登り、591mの頂上までたどり着くと、周囲の景色は絶景で言葉も出ないため息ばかり、紅葉に染まる木々、小さい花の冬桜、山裾から這い上がるように霧が立ち上り、紅葉、冬桜と三者一体となったコラボレーションはまさに息をのむ情景であった。



写真をカラーで掲載出来ないのが残念であるが、一読される方々はつたない文章の中から各自想像していただければ筆者として幸いと思う。



時間はあっという間に過ぎ去り、14時には全員バスに戻り、絶景を脳裏に焼き付けた公園ともお別れとなった。世話人さんの計らいで途中アルコールを積み込み、以後はバスの中での紅葉の始まりとなった。帰り道も比較的順調で来る時と同じ三芳PAで休憩

し、南流山駅には17時半頃に到着した。ここで千葉へ帰る皆さんと別れ帰宅に向う。いつも感じることだが千葉工業の3年間、会えることもなかった諸先輩、後輩の方々と意気あいい楽しく過ごせることが何よりである。

(記 編集委員)



▲ 日本庭園前で参加者20名の集合写真

M34同期会

土屋 孝夫(34M)

4年ぶりに1泊2日の同期会がJR内房線岩井駅の近くにある民宿「御目井戸荘」で開催された。

参加者は22名、今年の天気は異常で当日も雨が降ったかと思うと日が射して来て変化が激しい日であった。電車・車・フェリーと電



車を利用して各々集合時間の16時にはほとんどの人が集まった。

車で来た人は途中大雨に会い、一時走る事すらできなくなったとのこと。宴会は18時の予定だが、宿の周辺見る所もなく、早くも宴会の予行演習を始めた人たちも多かった。



本日集まった人たちは、毎年開催される仲間の絵の展示会に参加している人が多数いたため、自然とわきあいの雰囲気生まれてくる。反面暫くあっていない仲間の様子がわからない会となった。宴会は予定の時間に開催され、なごやかな中でカラオケ主体となった。料理はアワビやサザエ、地元魚の舟盛

りと海鮮料理が主で、新鮮でおいしかった。

翌日も天気が思わしくないため朝食後解散し、それぞれ帰宅することにした。良い集まりとなったようで解散時、毎年集まろうとの声も出た同期会であった。

「太陽の光は発電だけではなく 美味しい料理もできます」

富田 博(44M)

現在世界的に問題となっている地球温暖化、防止策の一環として自然エネルギーの活用が進んでいます。その代表的なものに太陽光を利用したソーラー発電がありますが、発電だけでなく、お湯を沸かしたり、料理をしたり出来るソーラークッカー(太陽熱調理器)と言うものが一部普及し始めています。

普及を図っています。

今回その一部を紹介させていただきます。

「ソーラークッカー」聞きなれない言葉ですね、でもそんな難しいことではなく、写真で見ていただくとお分かりのように、太陽光を集積してソーラークッカーに乗せてある鍋ややかんに光を集め、集められた光を熱に変え、煮物、焼き魚、ポップコーン、ケーキ等、普段は家庭のガスコンロ、電子レンジで調理しているのを太陽光の利用で行います。



▲ソーラークッカー(パラボラ型)

私は、現在地球温暖化防止のNPO(いちかわ地球市民会議)に入会してしまして、自然エネルギー担当として、このソーラークッカーの



▲ソーラークッカー使用、ポップコーン調理

今回ソーラークッカーの理論は省きますが、実際にどのように使用されているか紹介して見たいと思います。

水の殺菌は65度以上で30分程、市販のソーラークッカーで晴の日であれば多くの食材は82度以上で調理できると言われています。太陽の光の関係で、ソーラークッカー使用のベストな時間は、午前10時頃から午後2時頃が一番適した調理時間帯です。多少曇っていても1時間の内最低20分くらい直射日光があれば調理は出来ます。また、風の弱い日の方が集まった太陽熱は逃げません。

鍋ややかんなど容器の色は黒の色が熱吸収も良く、写真のポップコーンは黒のフライパンを使用しています。

その他にどのような料理が出来るのか、カレーライス、鍋料理、ケーキ、ポップコーン、ゆで卵、コーヒー、いちごジャム、ごはんも焚けます。

私は畑作業の時に昼食を作り、コーヒータイムにソーラークッカーを利用して楽しんでいます。ソーラークッカーは火の使用できない場所や、燃料が持ち込めない所にはとても便利な機材です。但し、ソーラークッカーの欠点は太陽の光が当たらない場所や曇りの日は利用できません。

次にいろいろなタイプのソーラークッカーを紹介します。

1. 箱型ソーラーオーブン

箱内に太陽光を集熱させるパネル1～4枚が付き、温まった空気が外に逃げないようにガラスの蓋が装備され、箱の保温

性を高める素材(木、合成樹脂、段ボール等)と断熱材が用いられています。箱内の熱気が周りから鍋全体に伝わり、食材が加熱され料理が美味しく出来ます。

2. パラボラ型ソーラークッカー

鍋の底に太陽熱の焦点が集まるように、反射パネルがパラボラ型になっています。ガスコンロの弱火～中火の火力を持っており、速く料理が出来あがるのがメリットです。一方、弱火としては制作するのに手間がかかり、調理時に太陽の動きにパラボラ面を頻繁にあわせないと焦点が鍋にあたりません。

3. パネル型ソーラークッカー

平らなパネルを立体的に組み合わせ、ビニール袋もしくはガラス容器内の鍋を中心部に置いて、太陽熱を集めます。比較的、少量しか調理出来ませんが、数百円の材料と1時間ほどで簡易に制作出来る利点があり、子供たちの教育用として有効です。

皆さん地球温暖化を少しでも防ぐためエネルギーの無駄づかいを止めましょう。

この様に一寸したアイデアで太陽光エネルギーが使えます。次の時代の人の為にもこの地球を守りましょう。

読書 ～つれづれなるままに～ 徒然草(2)

第七十二段 若氣と老熟と～若き時は

原文

若き時は、血氣内に余り、心物に動きて情欲多し。身を危ぶめて碎けやすきこと、珠をはしらむに似たり。美麗を好みて宝を費やし、これを捨てて苔のたもとにやつれ、勇める心盛りにして物と争ひ、心に恥うらみ、好むところ日々に定まらず。色にふけり情けにめで、行いを潔くして百年の身を誤り、命を失へるためし願はしくして、身の全く久しからむことをば思はず、好ける方に心ひきて、長き世語りともなる。身を過つことは、若き時の仕業なり。老いぬる人は、精神衰え、淡く疎かにして、感じ動くところなし。心おのずから静かなれば、無益のわざをなさず、身を助けて愁へなく、人の煩ひなからむことを思ふ。老いて智の若き時に勝れること、若くしてかたちの老いたるに勝れるがごとし。

訳

若い時代は血気が体内に有り余り、心は物に接すると高ぶり、欲望が激しいものだ。身を危険にさらして破滅しやすいさまは、碎けやすい玉をころがすのに似ている。美麗なものに心奪われ、有り金を注ぎ込んだかと思うと、突然これらを捨てて独り出家してしまう。また、闘志満々で、人と争っていたかと思うと、自己嫌悪に陥り他人をうらやましがる。目標が毎日変わって一定しない。色欲に溺れ情にほだされ、思い切りのよい行動をして先

の長い将来をだいなしにし、命を失ったような例に憧れて、わが身の長命は頭はない。そうして好きなことにのめり込んだ揚句、長く世間の噂の種になってしまうのだ。身の破滅は、まさしく若気の至りである。年老いた人間は、氣力が衰え何事にもあっさりと、こだわりがなく物に接しても欲望にかられない。心が自然で平静だから、無益なことは慎む。わが身をたいせつにして心配事がなく、他人に迷惑をかけないようにと考える。老人の判断力が若者よりも勝っているのは、ちょうど若者の容貌が老人よりも勝っているのと同じだ。

解説

若者と老人の比較論であるが、老人の智に軍配を挙げている。だが、字数は若者の氣質の描写に多く割かれている。そこで、想像されるのは、ここに描かれた若者像は、兼好自身の若き日の肖像ではないでしょうか。若気の過ちを犯した日々を回想して、五十路に近い今の自分と比較してみたのでしょうか。とすれば、ここに描かれた老人は、今ある自分というよりも、今後かくありたいと望む究極の老翁ではないでしょうか。

— 次号へ —

(参考文献 角川書店 徒然草)

(記 34M坂巻 実)

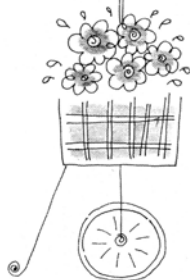
● 皆様の趣味や得意とするものをご連絡下さい ●

会員の皆様は、色々な趣味をお持ちだと思いますが、比較的ポピュラーと思われるものについて、役員の中かで一応の担当者を決めてあります。会員の皆様のご趣味・得

意な分野・特技などを把握し、色々な行事や交流にお誘いしたいと考えています。趣味や得意な分野が一致した方は、それぞれの担当者までご連絡下さい。

● ゴルフ	木間 英一	〒270-0002 松戸市平賀125-10	TEL.047-343-0455
● ハイキング 釣 り	木間 英一	〒270-0002 松戸市平賀125-10	TEL.047-343-0455
● 囲碁・麻雀	高橋 健一	〒270-0157 流山市平和台5-400	TEL.04-7159-9367
● スーパー 紙とんぼ	鎌形 武久	〒270-2241 松戸市松戸新田21-3	TEL.047-364-5084
● 茶 道	富田 博	〒272-0015 市川市鬼高3-12-39-516	TEL.047-393-0850

今後の予定



東葛支部の予定

平成27年
 3月21日(土)
 定例会議(高柳近隣センター)
 4月7日(火)
 支部会計監査(高柳・かつ美)
 5月16日(土)
 定例会議(高柳近隣センター)
 6月14日(日)
 第17回支部定期総会
 (我孫子・鈴木屋本店)
 7月18日(土)
 定例会議(高柳近隣センター)

本部・他支部関係の予定

平成27年
 4月4日(土) ハイキング同好会
 (江戸大名庭園・浜離宮等)
 5月26日(火)
 ゴルフ同好会 房総CC大上コース
 6月6日(土)
 麻雀同好会 マーチャオ千葉店
 6月28日(日)
 同窓祭 JFE「みやぎきクラブ」
 7月3日(金)
 グラウンドゴルフ 高品運動広場
 9月26日(土)
 麻雀同好会 マーチャオ千葉店

編 集 後 記

★母校(生実)で第62回千工祭が平成26年10月31～11月1日に開催された。62回と言えば津田沼校舎時代にも開催されていたと思うが、50年以上も前のことになるとどんな祭りをしたか全く記憶がない。同窓会本部役員会の中で会員増強のために何をすべきかとの議論一つの施策として、会場の一教室に同窓会をアピールする場が設置され、千工会、同窓会本部、七支部と平成26年に組織された女子会(レディス・ビオラ)の活動状況を展示して、卒業生及び在學生に同窓会を知ってもらおう事が大事としてはじめられた。

今後卒業生の方々を、いかにこの会場に引き込むことが出来るかの方策が必要とを感じるが、工業高校も現在では県内に8校もあり、現在東葛支部地域から通学している生徒は皆無であり、当支部として会員増強をどうするか非常に難しい状況である。

★昨年の総会にて東葛支部ホームページの開設が認められ、稼働しているが平成27年1月末現在アクセス数が約1900である。アクセス数の多少は別にして、これなども支部会員増に結び付ける方法として内容を更に充実させていかなければならない。

新入会員募集と入会手続きについて

東葛支部では、会員を増やしてどんどん組織を大きくしていきたいと思っています。このため、役員の中に「会員増促進委員会」を作って活動しています。

会員の皆様の仲間で、会員資格のある方がいらっしゃいましたら、ぜひ入会を勧めて下さい。

1. 入会資格 千葉工業学校、千葉工業高校、および同校併設中学校の卒業生、ならびにかつて同校に在勤、在学していた方で支部長が認めた方。
東葛地域に居住している方及び千葉県外に居住している方、または出身が同地域の方、同地域に勤務されている方。
2. 会 費 年会費 3,000円
3. 入会手続 役員へ入会申込みされますと郵便振替用紙をお送りしますから、年会費3,000円を振込願います。

支部会報第28号の原稿募集

東葛支部会報第28号の原稿を募集します。

1. 発行予定 平成28年4月
2. 原稿締切 平成28年2月
3. 内 容 母校の思い出・恩師の思い出・私の職場・私の仕事・私の趣味・私の特技・旅日記・近況・クラス会模様・エッセイ・呼びかけ・イベント報告 等、何でも結構です。
4. 投稿方法 卒年科・ご氏名を記入の上、郵便・FAX(自動受信)・E-mailのいずれかでご投稿下さい。
5. 投稿先 編集委員長 坂巻 実 〒277-0921 柏市大津が丘2-4-1
TEL:04-7191-5927 E-mail:minoru.sakamaki@jcom.home.ne.jp
編集委員 土屋孝夫 〒213-0001 川崎市高津区溝口3-18-17
TEL:044-844-2767 E-mail:golf-t@tbn.t-com.ne.jp
編集委員 富田 博 〒272-0015 市川市鬼高3-12-39-516
TEL:047-393-0850 E-mail:c-tomi@rr.em-net.ne.jp

東葛支部会報

第27号

発 行	平成27年4月1日
発 行 者	千葉工業同窓会 東葛支部
発行責任者	支 部 長 吉田勝彦
事 務 局	事 務 局 長 木間英一
編集責任者	編集委員長 坂巻 実